

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第9回)

議 事 概 要

令和6年9月11日(水) 10:00~12:00

於: 国土交通省 8階特別会議室

- 渡島トンネルの長尺ボーリングに関しては、想定よりも早く最小の径のケーシングまで使用している状況を踏まえると、これまでの掘削区間以上に地質が悪くなる可能性も考えられるが、今後ボーリングコアの分析を進め、この先の地質見通しをどのように持つべきか検討する必要がある。
- 羊蹄トンネルについては、新たな岩塊の出現による掘削の停止は、今後も大きなリスク要因になり得る。その場合の遅れの期間については、過去の比羅夫工区での岩塊撤去に約2年要したという実績はあるが、工法の工夫の余地がないか議論した上で、撤去に必要な期間を検討する必要がある。
- 土木工程の短縮策については、土木工程だけをもって妥当性を判断するのではなく、その後の設備工程等を含めた全体工程も見ながら検討していく必要がある。
- 今後のトンネル掘削の見込みを考える上で必要なリスク項目は抽出されていることを確認したが、リスクの発生度や影響度は様々であることを踏まえつつ、それらのリスクを今後の工期の見通しにどのように反映させるのか、今後のボーリング調査結果や、岩塊撤去の状況を見極めながら議論していく必要がある。
- 設備工程や監査・検査のスケジュールについても検討を進めつつ、早期に設備工事に着手しなければ開業時期に影響を及ぼす恐れのある箇所 of 土木工事について、重点的に工程管理すべき工区として検討を進める必要がある。